

出張者：竹内先生、Dr.Khin、吉本

2月19日～20日

深夜便(00:20TG661)に乗るため羽田空港へ。タイ航空のカウンターは思った以上に混んでいた。無事にイミグレーション等を通す。定刻から3時間遅れの3時半ころ出発。バンコクの空港で、3時間ほどの待ち時間。



写真 1-4

定刻に、バンコク（10:55TG321）発（写真 1-4）、ダッカ空港到着(12:30/時差3時間：日本)。2時間ほどの待ちで、国内線のプロペラ機(15:10BS165)で（写真 5）、ラジャシャヒ空港到着（17:00）。



写真 5-7

Dr.Rahe が花束をもって出迎えてくれる。感動（写真6）。町の風景（写真7）

その後、ホテルに移動。バングラデシュの第2の町とのことで、インフラも整備されつつあり、車もトヨタのボックスカーで、快適。ホテルに、18時過ぎに到着。その後、2階のレストランで食事（どのカレー、ナン、ドーサ、ビリヤニは、非常に美味しかったが、ビタミンの入った飲み物（Jeera Pani）はNGだった）をして（写真8）、リキシャで、移動。ガンジス川をみる（写真9）。何か聖なるものを感じた。そのあと、英国時の古い街並みを歩き、リキシャでホテルに戻る（写真10,11）。



写真 8-11

2月21日

7時に朝食。全て美味しかった（写真11,12）。



写真 11,12

RJH（ラジャシャヒ）からダッカへの道中 WTS 設置3か所見学のため
8時30分出発 霧が出て幻想的（写真13-16）



写真 13-16

道中は、竹の家、レンガの家、トタンの家が並ぶ（写真17,18）。



写真 17,18

WTS を見学する。



写真 19-24

一つ目は、Village の中であつたので、農村の風景も見ることができた（写真 19-24）。もともとの地形を利用して、テラスを作成（写真 25）。村民と牛の糞とわらを混ぜて乾かし壁の芯として利用するとのこと（写真 26,27）。



写真 25-27

テラス方式に畑を区画して、一番下の畑にバケツのセンサーをおいて日々水の量を確認している。田植えはすべて手作業なので若干まっすぐではなかった。よく見ると一番下の畑から四方にテラスが上がっていった。（写真 28-31）



写真 28-31

村民は、テラスの畑を使用する際は、お金を払って畑を耕す。100 家庭くらいが参加している。コメは、粒の小さいのを作っている。小さいほうが、売値価格は高いとのこと。砂は、たいへん細かく柔らかい。牛のふんとわらを混ぜ、砂と一緒に壁を作って家を建ててい

る。中は、竹で補強されていた。部屋の中は、ファンがあり過ごしやすそうだった（写真 31-33）。

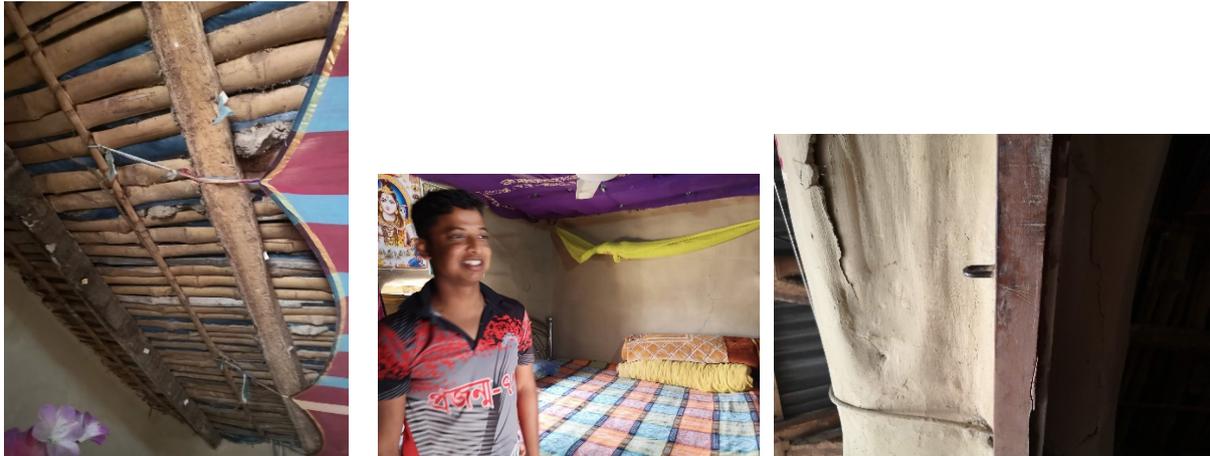


写真 31-33

コメの貯蔵のツボがあったり、火をおこす場所があったり、ハトのかごがあったり。外では、牛、ヤギ、鶏、など。畑には、なす、きゅうり、まめ、玉ねぎ、などなどが作られていた。コメは、3毛作で、空いているときは、マスタードを栽培したりしている。また、マンゴーも多々あり、5～7月には、5種類のマンゴーができる（写真 34-37）。



写真 34-37

2つ目は、AWT を使っている畑とそうでない畑が隣合っていた箇所を見学。明らかに利用している畑は、水も澄んでいて、成長もよかった（写真 38-40）。



写真 38-40

オーナーの方の家で、休憩を取った。スナック、水、ソーダをふるまってもらった（写真41）。道中、煉瓦の窯が多々煙を出していた。（写真42,43）



写真 41-43

3つ目は、管理されている25ヘクタール（80世帯が共同で行っている）の農地を見学。水を抜いた箇所も見せてもらう。稲が、整然と並んでいて、風の向きを考えて、理想的に育てていた（写真44-46）。



集合写真を撮る（写真47,48）



写真 47,48

3つの見学を終えてダッカに向かうが、この時点で15時前。



Rahe さん御用達のハイウェイのレストラン (Food Village Plus) で、バングラデシュ料理を堪能 (写真 49-51)



写真 49-51

その後、渋滞にも巻き込まれて、20 時過ぎにホテルに到着。途中建設中の橋を通過 (写真 52-54)



写真 52-54

チェックインを済ませて、こちらも Rahe さん御用達の近くのケバブのお店(Star Kebab)で、晩御飯 (写真 55-57)。戻って解散。



写真 55-57

2月22日

ホテル界隈の街を見学。1時間ほど歩いて戻る（写真 58-69）。

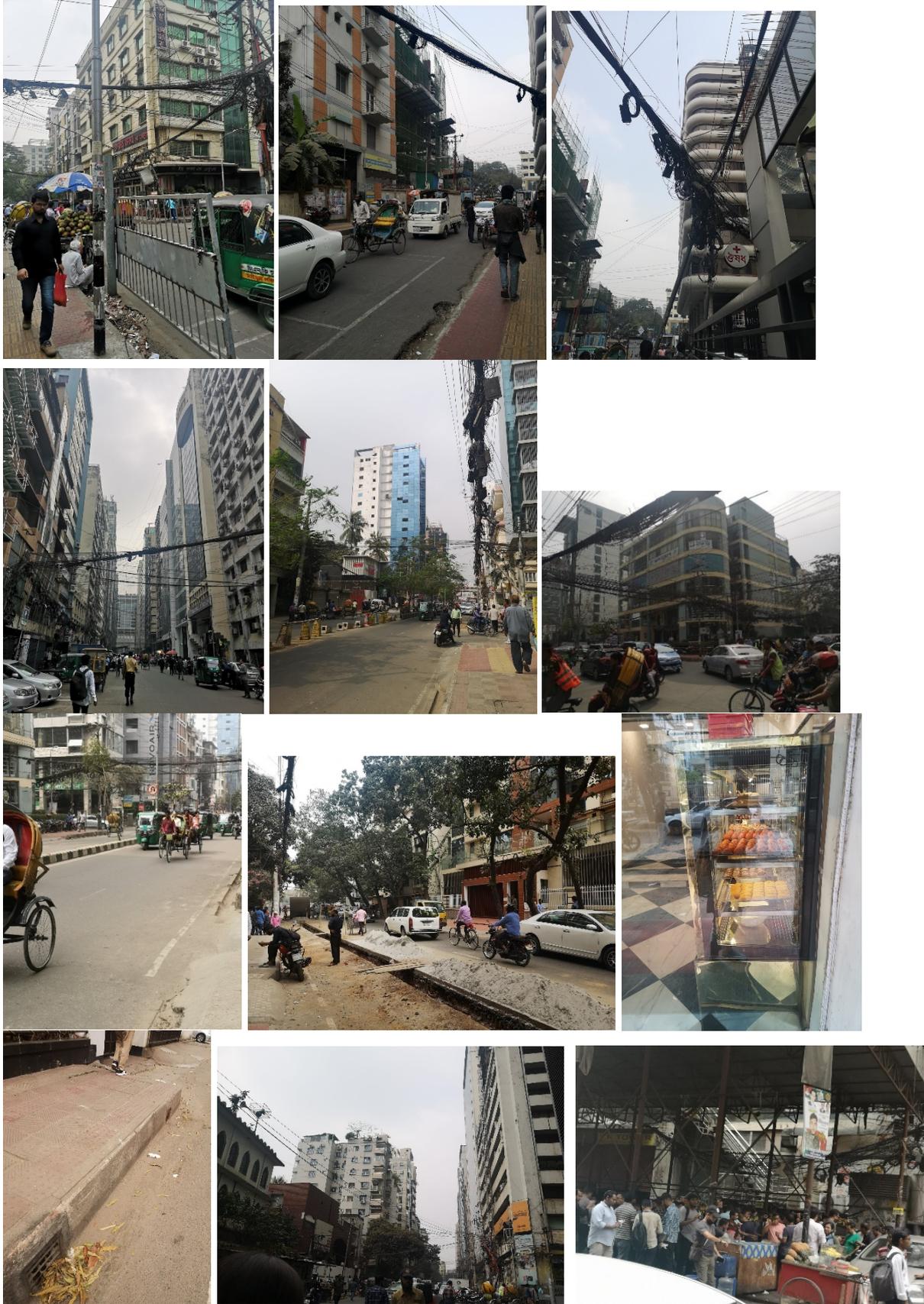


写真 58-69

昼食は、North END（歩いて5分ほどのCAFÉ）に行く（写真70-73）。



写真 70-73

パンとコーヒーなどを堪能。値段は、安くはなかった。

14時ホテル出発しダッカ大学へ移動。渋滞に巻き込まれながら、15時過ぎに到着（写真74-80）。線路の建設中で完成すると空港から電車で行けるようになるとのこと。

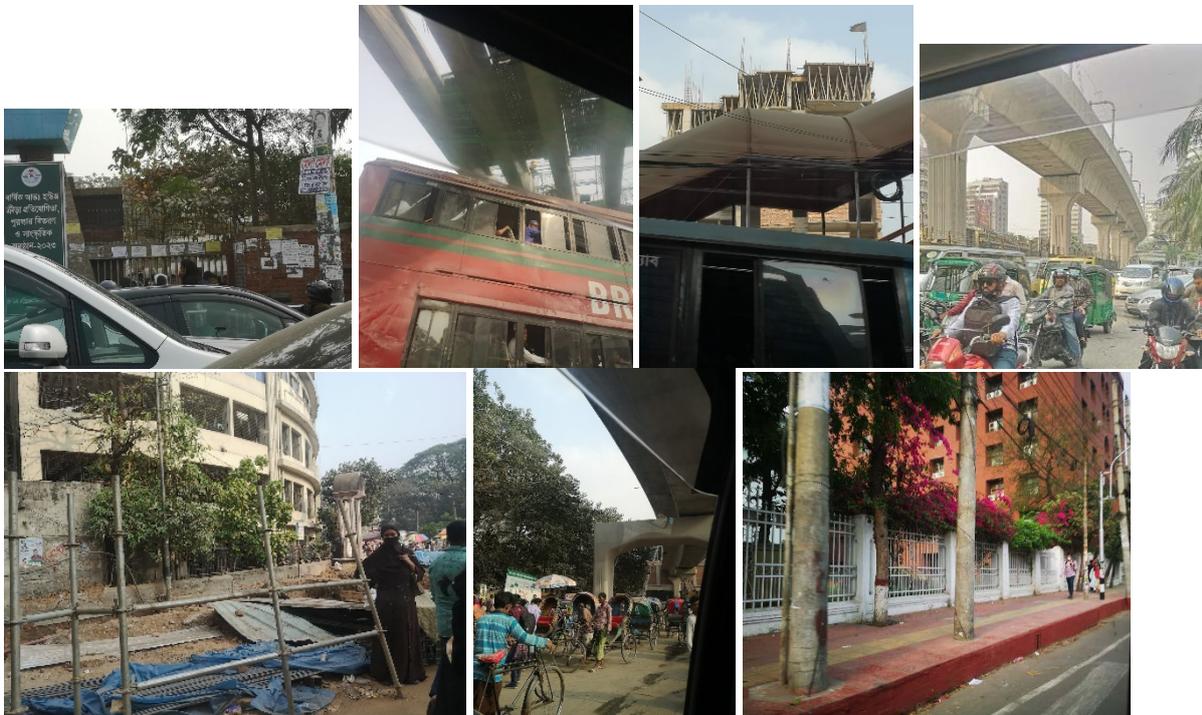


写真 74-80

シャミマ、シャミレンと話をして、その後、ダッカ大学内を見学（写真81-98）。



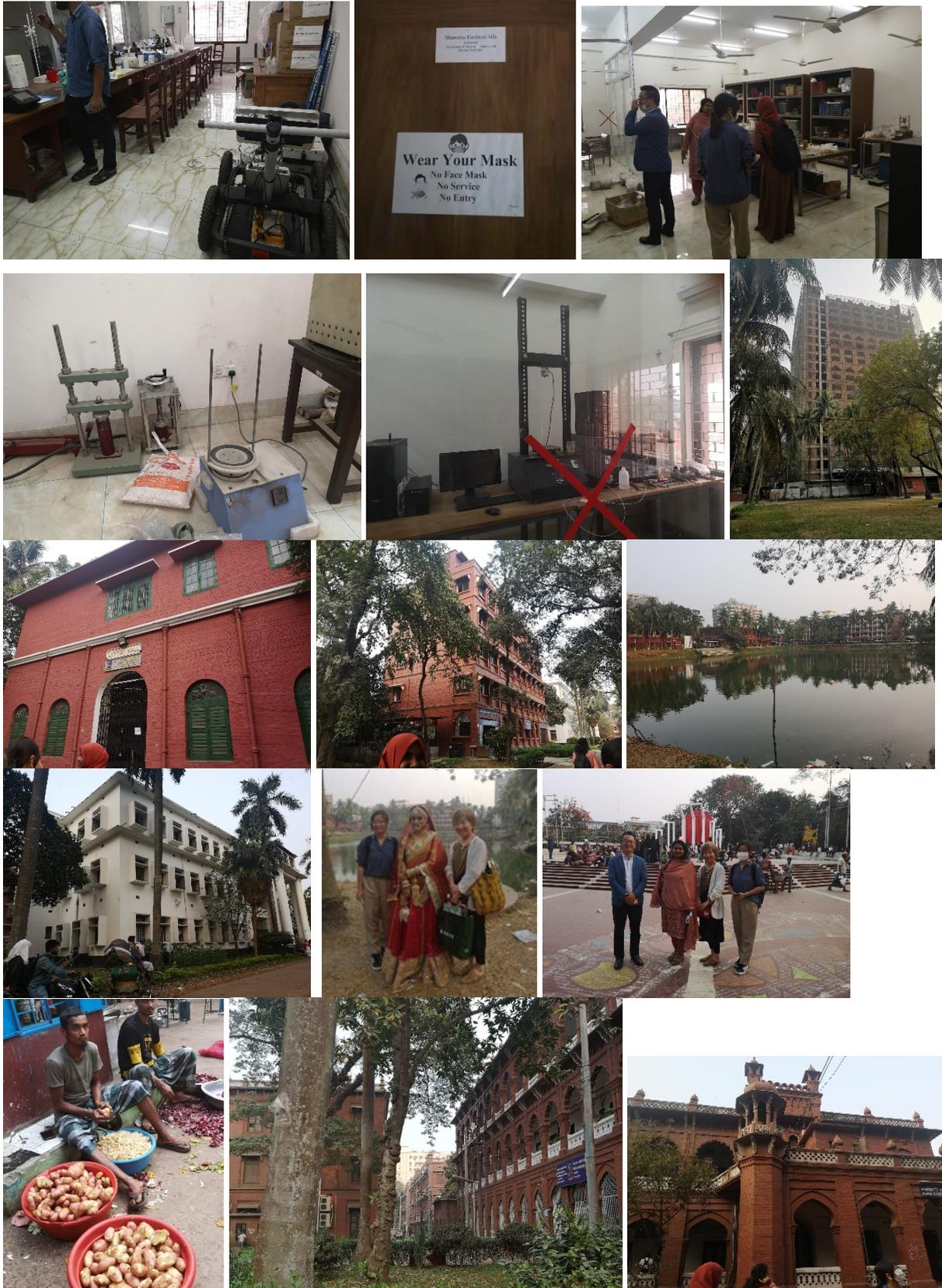


写真 81-98 多くの方の撮影場所にも使われているとのこと。ジャガイモの切り方が独特だった。前日が Mother Tongue Day の祝日で大学ではお祝いのセレモニーがあった。17時過ぎに、Kamal 先生の部屋で、ホサインとも再会 (写真 99,100)。8名で OHOW 2023 について会議。19時まで



写真 99,100 (Md.Shakhawat Hossain, Prof. Md. Zillur Rahman, Prof. A.S.M Maksud Kamal, Prof. Takeuchi, Shamima Ferdousi Sifa, Yoshimoto, Dr. Khin)

その後、夕食。ビュッフェスタイルのレストランで、味は、美味しかった。ホテルに戻り解散
22時過ぎ

2月23日

9時にホテル出発

10時半過ぎにBUE T到着,道中は大渋滞 (写真 101-106)



写真 101-106

Ansary 先生と 11 時前に再会、BNUS で、今後のことなど1時間ほど話しあう (写真 107-109)。



写真 107-109

12時過ぎに、BUETの職員用の部屋で昼食。中華のデリバリー弁当。ボリュームもあり、味も美味しかった(写真110-112)。一時電話が不通となる(今回初めて)



写真 110-112

Raheさんが登場して、アンサリ先生を紹介し、交流を深める。(写真113)。その後、ダッカ大学に車で移動して、ShamimaさんとShahoriarさんと合流 OHOW2023のテクニカルツアーの下見に行く。下記は道中の写真(写真114-120)



車で移動：Lalbagh Fort(ラルバークフォート)見学、特別に SECRET TUNEL も見せてもらう
 (下記の2列目、普段使用しないため蚊の大群が出てきた) (写真 121-130)。



写真 121-130

Lalbagh Fort(ラルバークフォート)：城壁跡、ムガル帝国大6代皇帝アウングゼーブの子アザミ=シャーにより、1678年に建立。城は未完のまま、ビビパリ霊廟、イスラム寺院、庭園などが建設された。

その後、OLD ダッカの一部を見学 (写真 131-134)。



写真 131-134

Aalong で、買い物をして(写真 135-138)、裁判所を見学 (写真 139) して解散。



写真 135-138



写真 139 とホテルまでの道中の写真 140

18時ころホテル到着



写真 141

ロビーで Dr.Md.Golam Mahboob (岐阜大 OB) 会合 (写真 141)

19時に集合して、TURKISH BAZAAR で夕食 (写真 142-151)。美味しかった。



写真 141-151



コンビニ店内の棚には、物がきれいに並んでいた。

2月24日



最終日の朝食も美味しくいただきました。紅茶は本場です。

10時ホテル出発

11時前に無事に空港到着



ダッカ空港

空港の免税店は、あまり買うものなし。

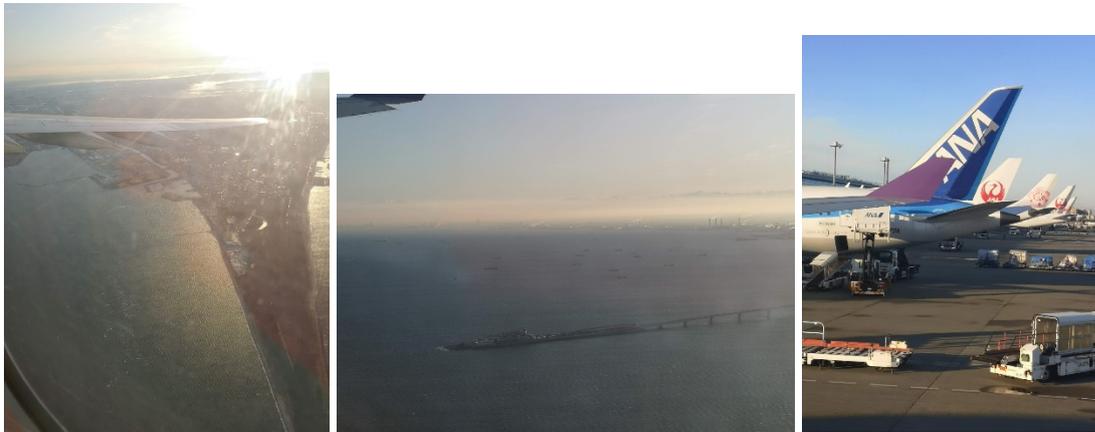


ダッカ市内上空





バンコク上空



千葉上空を經由して羽田到着

今回感じたこと。

16年前に訪問した時は、電気が何度も停電してプレゼンが中断したり、建物も低く道もまだまだ整備されていなかった。車もリキシャも電動ではなく、皆、必死で漕いでいた。車は、ポンコツしか走ってなかった。食事でも薄い味のダルと硬いコメを食べたイメージだったが、今回、まず驚いたことが、どこへ行っても食事が大変美味しく、洗練されていて大満足だったこと。何を食べても美味しかったこと。ホテルの朝食も充実していたことだった。道路もインフラ整備がかなり進んでいた。電車も一部開通していて、今後は、空港から、電車で移動が可能となる日も近いようだ。しかし、人口増加とインフラ整備のバランスは、まだまだのようにも感じた。世界1, 2位を争う空気の悪さは、晴れているにもかかわらず、青空を見ることはできなかった。レンガを焼く作業も未だ続いているし、交通渋滞の酷さは、尋常ではなかった。人、リキシャ（電動と人力）、バイク、バス（バスは、ボロボロだった）、車が入り乱れていて、ROUNDABOUTは、かなりの箇所で機能していないように感じた。鉄道も川に新たにオリエンタルコンサツタンツが絡んで、建設中だが、雨季は、作業が中断し、川の流れも変わるためかなり難しい工事となっているとのことだった。建物も以前にはなかった、高層階も建設しているが、安全性ではまだまだのところもあるようだ。歩道も整備されつつあるが、まだまだ時間はかかるように思える。しかし、日本の技術が、多々入っていて、今後の発展は間違いないだろうと素人でも思えた。

街中は、男性が8から9割、女性は、どこにいるのだろうか？と思うほど見当たらない。しかし、人間味はあり、気楽に声をかけてくれるし、写真も日本人が珍しいのか取ってほしいと何度も声をかけられた。

衛生面もホテルの水道水でのがいくらい（基本はペットボトルを使用がよい）問題はないようだが、蚊は、飛んでいるが、思ったほどではなかったが刺されるとマラリアになる可能性は大のようだ。ハエは、ほとんど見るのがなく、どのように改善したのか今度聞いてみたいと思った。ホテルは、5つ星に宿泊したからだと思うが別段問題はなく、スタッフも皆親切だった。歯ブラシや、使い捨てスリッパも常備されていて、広々とした部屋でリラックスできた。駆け足のバングラデシュ出張だったが、多くの方々と話すことができ、実り多い日々となった。パンのおいしさと紅茶は、格別だった。

PEOPLE WHO MET ?

RJH:1st visited to AWD: Bulbul Ahmed, Rajshahi Sadar,
2nd visited to AWD: Parveen Aktar (Puthia, Rajshahi),
3rd visited to AWT: Md Sohel Hassan (Natore),

Univ. of Dhaka:

Prof. Dr. A.S.M Maksud Kamal, Professor and Pro-Vice Chancellor(Academic)
Prof. Dr. Md. Zillur Rahman, Professor of Dept. of Disaster Science and Climate Resilience, and
Dean of Faculty of Earth and Environmental Sciences
Mr. Md. Shakhawat Hossain, Associate Professor, Dept. of Disaster Science and Climate
Resilience
Ms. Shamima Ferdousi Sifa, Lecturer, Dept. of Disaster Science and Climate Resilience
Md. Shahoriar Sarker, Research Assistant, Dept. of Disaster Science and Climate Resilience

BUET: Prof. Ansary Mehedi Ahmed

Hotel: Dr. Md. Golam Mahboob

HOW TO !

バングラデシュ VISA: 大使館で取得の場合 顔写真を PC に保存

1. バングラデシュ大使館の HP から CONSULAR SERVICE→VISA/ビザ→

<https://www.visa.gov.bd/> → 同意して NEXT →メールアドレス等を入れると申請用紙となり
必要箇所を入力

2. 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-2-9 バングラデシュ大使館に 10:30-11:30

申請書、Passport、E-ticket、hotel reservation、写真

日本人は、無料だが、国籍によっては、事前に手数料を振り込み、振込書が必要

3. 7営業日後の 14:00-14:30 に受け取りに行く

VOA の場合 : Passport、E-ticket、hotel reservation を空港で提示し取得

HOW MUCH ?

航空券：羽田→バンコク経由→ダッカ往復 エコノミー 約 175,000 円 ダッカ→RJH 片道約
5,000 円

ダッカホテル（一応5星）12,000 円 JRH ホテル：9,000 円 いずれも朝食付き

2/22 夕食 4人で2,000 円 2/21 昼食 4人で1,300 円

車代：2/20,21 16,000BDT, 2/22,23 10,000BDT ホテル→空港 2,000 BDT : 1BDT=1.26 円